

ライティング支援連続セミナー 体験記 知識と言葉をめぐる冒険 「大学で身につけたい言葉の力」



セミナー講師：島田康行先生（アドミッションセンター／人文社会系）

中央図書館ラーニング・アドバイザー
秋山茉莉花（生命環境科学研究科）

Lesson1 疑うことから始めよう—批判的に読む—

2013/ 6/13(木) 15:30-16:30

研究とは、黄河が自分の目の前ではどう流れているのかを明らかにすることです。島田先生のセミナーは研究とは何か、ということから始まりました。黄河は長い川です。その川の流れ方を説明する時、「西から東へ流れている」と言っても、皆が既に知っていることです。けれども、自分の目の前にある小さな支流がどんな風に曲がりくねって本流へと繋がっているのかを説明できれば、新しい知見を重ねたこととなります。これが研究です。大学で行う仕事です。そんなことを、島田先生はいつも大学1年生へ向けてお話されるのだそうです。

隠れた真実を明るみに出すという点で、研究者と探偵小説の主人公は似ているかもしれない、と思いました。そしてそんな二者が共通して行う営みが「批判的思考」です。探偵ごっこ、ではなく研究者としての訓練のつもりで演習問題に取り組みました。実際にセミナー中に扱われた問題をいくつかご紹介します。

【大前提】（ ）

【小前提】彼はこの大学の学生でも教員でもない。

【結論】ゆえに、彼は本の貸し出しサービスを受けられない

大前提は何でしょう？ これはまだまだ難易度低めですよ。

次の文章では、主張と根拠の関係に問題があるようです。どんな問題があるのか見つけて指摘してみてください。

文章1

少子化は現在、日本が対面している最も大きな問題の一つです。この大問題の解決に向けて、我が県では大お見合いパーティを開催することにしました。これで解決への一歩を踏み出せたはずですよ。

文章2

大学生の学力低下は年々深刻化の一途をたどっている。アンケートによると、なんと6割を超える大学教員が、自分の学生時代と比べ、現在の学生の学力は低いと思う、と答えたそうだ。

指摘の仕方は何通りもあると思います。ぜひ取り組んでみてください。

【参考文献】

- ・荻谷剛彦『知的複眼思考法』講談社 1996
【中央・図情／分類：141.5-Ka67】
- ・佐渡島沙織・吉野亜矢子『これから研究を書くひとのためのガイドブック』ひつじ書房 2008
【中央／分類：816.5-Sa13】
- ・野内良三『発想のための論理思考術』NHKブックス 2010
【中央／分類：141.5-N91】
- ・楠見孝・子安増生・道田泰司『批判的思考力を育む』有斐閣 2011
【中央・図情／分類：377.15-Ku92】

Lesson2 考えの述べ方—主張の構造—

2013/ 6/20(木) 15:30-16:30

島田先生のセミナーの2回目は、早速演習から始まりました。小学生のけんた君の一日が4コマ漫画で示してあります。けんた君にとってその日がどんな日だったのか書いてください、という問題です。1コマ目ではけんた君がテレビゲームをしています。時計は深夜2時を指しているようです。2コマ目は野球のユニフォームを着たけんた君が腕時計を見て慌てて家を出ようとする場面。3コマ目ではバスに乗り間違えたようです。そして4コマ目では野球場のベンチで他の人がピッチャーを務めているのを見てがっかりしています。けんた君は遅刻してピッチャーを務めることができなかつたようです。けんた君にとって、とても残念な一日だったと言えるでしょう。

セミナー参加者の9割は、このような書き方をしていました。ところが2名だけ、別の書き方をした人がいました。「その日はけんた君にとってとても残念な一日だった。なぜなら……」

このような書き出しで始まるのを「因果律型」、私が書いたような書き方を「時系列型」としましょう。興味深い調査があります。このような問題を日本人と米国人で比較すると、米国人では時系列型は約6割に留まり、3割以上が因果律型であるのに対し、日本人は約9割が時系列型なのだそうです。つまり日本で教育を受けた人は自然に時系列型で論理を組み立てる傾向にあるのです。因果律型と時系列型のどちらが良いかは、場合に応じて異なります。今回の例題ではどちらを使うのが正解というのはありませんが、必要な時に必要な型を意識してうまく使い分けられるようになりたいですね。

セミナーに参加して得られるのは確たるスキルではなく、気づきです。研究生生活だけでなく、就活や社会に出てからも生きるライティング力を身につけるために、他の授業のレポート課題を、セミナーで習ったことの実践の機会として活用できると良いですね。

【参考文献】

- ・渡邊雅子『納得の構造 日米初等教育に見る思考表現のスタイル』東洋館出版社 2004
- ・国立教育政策研究所「平成23年度特定の課題に関する調査（論理的な思考）」
http://www.nier.go.jp/kaiatsu/tokutei_ronri/index.html
<http://www.nier.go.jp/kaiatsu/tokuteikadai.html>